

歴史のなかの 万葉集Ⅰ

平成21年

期 日

8月22日(土) ▶ 23日(日)

会 場

高岡市万葉歴史館 / 講義室

受講料

2日間 3,000円(学生は1,000円)

定 員

先着120名

※原則として2日間の受講に限ります。

※富山県生涯学習力レτζ連係講座です。秋季高岡万葉セミナーとあわせて受講されると10単位。

※申込みは電話・FAXなどで万葉歴史館まで。

※周辺に食堂はありませんので、23日は昼食をご持参いただくか、お申し込みください(1,000円)。

お知らせ頂いた個人情報は受講の通知・講座日程の変更通知に必要となります。これ以外の目的に使用する事はありません。

第1日 8月22日(土) 13:10~16:30

開講式

13:10~13:20

第1講 歌木簡と万葉集

13:20~14:50



講師 栄原永遠男 (大阪市立大学大学院教授)

石神遺跡(奈良県)、宮町遺跡(紫香楽宮跡、滋賀県)、馬場南遺跡(京都府)であいついで万葉集に関係する木簡が発見されたことにより、『万葉集』の成立を考え直そうとする機運が出てきている。この動きを一層確かなものとしていくためには、それぞれの木簡に関する基礎的な事実を正確におさえることが必要である。紫香楽宮跡出土木簡を中心にこの点を明らかにし、さらに歌と木簡の関係を考えるために、歌木簡の実態を検討したい。

第2講 原文に到る道

15:00~16:30



講師 山崎 福之 (京都府立大学教授)

諸本研究を進めることは、そのまま本文批判、すなわちあるべき原文を推定することにつながる。諸本はそれぞれ書写当時の万葉集の受容と利用の一形態・一指標と考えられるので、数々の諸本の姿を正しく把握することは、原文がいかに変容しつつ継承されてきたかという道筋をたどることになる。そう考えれば、万葉集歌を引用する文献も広い意味で「諸本」として扱うこともできる。諸本研究と本文校訂に関わる問題を具体的に論じる。

